

平成 29 年度

海外帰国生 入学試験

作 文

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 2 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。

共立女子中学校

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

柔道に打ち込みながらもまあまあの成績だった。しかし全日本のチャンピオンになった翌年、なぜか勉強の手を抜いたつもりはなかったのに、学校の成績がぐんと落ちた。

親から「一年生の時から柔道を続けてきて、チャンピオンになったとたんに成績が落ちるとはこういうことだ。どこかでチャンピオンだから勉強は適当でいい、と考えている証拠ではないか」ときつく指摘された。

「母さんは柔道を頑張れって一言も言っていないよね。あんたは、自分が好きでやっているんでしょう。止めたっていいんだよ。柔道か勉強か選ぶのであれば、勉強を選びなさい。学生の本分は勉強なのだから」

そう言われて、カチンと来た。

柔道で日本のトップを走っているのに、勉強の水準も前と同じに保てというのだ。

親の方針は、中学生の私にとって重圧だった。

だが今となってみれば、そんな風に厳しく鍛えてくれた親に感謝している。当時は女子の柔道なんて認知もされていなかったし、柔道が仕事につながっていく可能性など、親も私自身も想像できなかった。親としての責任から、せめて娘にはきちんとした社会人になる力を付けて欲しいと考えていたのだろう。

「得意な柔道」以外のことで真面目に努力する。それは貴重な経験だったと、大人になり社会に出て痛感している。

(山口 香『残念なメダリスト チャンピオンに学ぶ人生勝利学・失敗学』中央公論新社 による)

問

——線部『得意な柔道』以外のことで真面目に努力する。それは貴重な経験だった」とありますが、「得意」ではないけれど「努力した」あなた自身の体験を書きなさい。また、その体験からあなたはどんなことを学びましたか。この二点について、六〇〇字程度（英語の場合は、作文解答用紙におさまる程度）で具体的に書きなさい。

【注意】

- 書きことばとしてふさわしい表現で書きなさい。
- 文字は正確に、はつきりと書きなさい。
- 日本語で作文を書く場合、文末の表現は「です」「ます」でも「だ」「である」でもかまいませんが、文体を統一して書きなさい。